

第2246回例会 最終夜間例会
6月30日(木)晴れ/18:30~20:50 [松魚亭]

1. 式次第 点鐘
国歌斉唱
ロータリーソング「それでこそロータリー」
水巻啓光会長挨拶
喜多利行幹事挨拶
新旧会長・幹事バッジ交換
松魚亭さんより会長・幹事へ花束贈呈
ニコニコボックスの披露
閉会点鐘



2. 企画 「大道芸」
水橋佑介氏 (パフォーマー)



3. 出欠
出席 会員 32名 ご家族 13名
欠席 9名

4. ニコニコボックス
水巻君 水巻・喜多コンビの解消日です。二人とも知らないこと、気がつかないことが多く、会員はじめ家族の皆さんにご迷惑をかけた思いがあります。支えていただいた皆様に感謝と御礼を申し上げ幕引きといたします。ありがとうございました。本日のコンペ(一般の部)2位でした。
喜多君 今日が幹事としての最後の夜間例会です。皆様1年間有難うございました。
小泉君 水巻会長・喜多幹事一年間ありがとうございました。声が出たら、もう一年会長職おゆづりします。
木村(康)君 水巻会長、喜多幹事一年間お疲れ様でした。来月よりバックアップの程宜しくお願いいたします。
中村(實)君 水巻会長・喜多幹事、一年間おつかれ様でした。コロナ禍の中、しっかりとクラブ運営を頂き感謝申します。ゴルフ同好会コンペも無事に終わりました。会長賞もありがとうございます。
内堀君 水巻会長、「助けあい、学びあうクラブ」で一年間クラブを引張っていただき、ありがとうございました。又、それを支えた喜多幹事一年間ご苦労さまでした。今宵はゆっくりくつろいで下さい。
畠君 一年間ロータリーメンバーのつぶやきひとりごとにお付き合い下さり感謝
水巻会長一年間お疲れさま
水橋さま今日は楽しみです
松本君 水巻会長・喜多幹事一年間おつかれさまでした。
辻君 五人目の孫が生まれました。七十過ぎの孫はかわいさがひとしおです。

合計 22,000円 (累計 526,000円)
6月出席率 92.66% 年間出席率 84.85%



第2247回例会
7月7日(木)晴れ/12:30~13:30 [松魚亭]

1. 講話
小泉会長、木村幹事、安宅50周年特別委員長、中村戦略特別委員長
「新年度所信表明」
2. 顕彰
第48代会長(水巻君)、幹事(喜多君)
3. 新会員の紹介
森 眞一郎君(紹介者:木下君)
4. 皆出席顕彰
辻君(35年)、中村(芳)君(18年)、中川君(14年)、松田君(10年)、喜多君(4年)、野村君(3年)
5. 誕生日お祝い
辻君(3日)、安宅君(5日)
6. 結婚記念日お祝い
佐賀君(6日)
7. 幹事報告
友好クラブからの祝電披露、配布物確認、クラブホームページパスワードの件、地区国際青少年交換委員会より2023-24年度派遣交換学生募集の件、ガバナー補佐訪問・ガバナー公式訪問の件
8. 出欠
出席 30名 欠席 10名
9. ニコニコボックス
小泉君、木村(康)君
今日から新年度例会がスタートします。「笑顔あふれる金沢北ロータリークラブに…」どうぞ宜しくお願いいたします。
山上君 小泉新政権の船出を祝って
岩網君 小泉会長、木村幹事一年間よろしくお祈いします。最終ロータリーコンペで水巻会長賞いただきました。早速、賞品の「レーダー距離測定計」を昨日利用しました。80台でまわられました。効果てきめんです。
本田君 末の娘が結婚しました。
水巻君 小泉丸の船出おめでとうございます。水巻丸はドッグ入りいたしました。一年間ありがとうございました。
喜多君 小泉会長・木村幹事バトンタッチです。一年間宜しく御願いします。皆出席顕彰ありがとうございます。
内堀君 新しい年度のスタートを迎えて 小泉会長・木村幹事さん一年間宜しくお祈いします。
中村(實)君 小泉・木村丸の船出を祝して! 一年間よろしくお祈いします。森さんの入会、心より祝します。
松田君 皆出席顕彰ありがとうございます。
中村(芳)君 皆出席顕彰ありがとうございます。
野村君 小泉会長、木村幹事一年間よろしくお祈いいたします。皆勤賞ありがとうございます。
合計 26,000円 (累計 26,000円)



9月予定

金沢市内RCの例会変更は各クラブホームページでご確認いただくか、事務局へお問い合わせください。

- 9月 1日(木)例会
- 9月 8日(木)例会
- 9月 15日(木)例会、理事会
- 9月 22日(木)休会(祝日週につき)
- 9月 29日(木)例会

●会員数/41名 ●クラブ設立/昭和48年10月3日
◎例会日/木曜日 12:30~13:30
◎例会場/松魚亭 金沢市観音町3-4-45 TEL:076-252-2271 FAX:076-252-2273

●会長/小泉 幸雄 ●会長エレクト/山上 公介 ●副会長/本田 正敏
●幹事/木村 康徳 ●副幹事/岩網 大介 ●会場監督/諸江 美奈 ●会計/喜多 利行
●クラブ会報委員長/千口 寿子

金沢北ロータリークラブ



発行 2022.8.25thu

No. 988

事務局/金沢市大手町15番15号 金沢第2ビル4階
TEL:076-254-6368 FAX:076-254-6395
E-mail:office@kanazawa-north.jp
HPアドレス:http://www.kanazawa-north.jp



「金沢港とにっぽん丸」

ポリオ撲滅推進の現状とポリオ・プラス基金の役割

会員 佐賀 務

ポリオ（急性灰白髄炎）はポリオウイルス感染により神経が麻痺する病気です。5歳以下の小児がかかるので脊髄性小児麻痺とも呼ばれます。発症率は1%程度で多くは回復しますが、手足の麻痺が永続的に残ることがあり、呼吸筋が侵されれば死の危険もあります。人から人へ糞便を介して接触感染します。疑い症例を確定診断するためにはウイルス同定検査が必要です。まん延地区では下水などのサンプルでウイルスを検出する疫学調査が行われます（サーベイランス）。予防は経口生ワクチン（OPV）が安価（20円／1回）で非常に有効なので、まん延国で使われています。まれに弱毒化した生ワクチンが活性を取り戻して発症に至ることがあり、ワクチン由来のポリオウイルス（cVDPV）株と呼ばれます。野生（自然）株のポリオウイルス感染とは区別しますが野生株の発症率がワクチンで激減している今では、cVDPV株の患者数が野生（自然）株の患者数を上回っているのが現状です。先進国では2012年から死菌ワクチン（5,000円／回）の4回注射が普及していますが、死菌の場合活性化の心配はありません。一般にワクチンの運搬は熱帯であろうと現場まで冷所保存でつなぐ必要があります。現場まで教育を受けた人を含めルート確保する必要があります。その国の保健体制、政治的支援が問われることとなります。皆さんご存じとは思いますが、「ポリオ撲滅運動」は日本のロータリーから提案されたことです。1982～1984に東

京麴町ロータリーの2人が南インドでのポリオの惨状を目にし、日本に帰ってからクラブ、地区、そして国際ロータリー（RI）を動かして採択に至ったものです。RIが1985年に発足したポリオ・プラスは、世界からポリオのみならずプラス（プラスとは麻修、ジフテリア、結核、百日咳、破傷風）して撲滅を図るという野心的な活動です。1985年当時の目標は開発途上国の子供たちに、5年間、ポリオの予防接種を行なうために1.2億ドルを集め実行することでした。ポリオ・プラスは発展し、1988年「世界ポリオ撲滅推進計画（GPEI）」が発足します。RIと世界保健機関（WHO）が主体となって組織化され、グループに、ユニセフ（UNICEF）、米国疾病予防センター（CDC）、各国政府やその他の団体が参加し、ポリオ・プラスの保健問題に取り組むことになり、世界で最も大規模な公民間の協力活動となりました。さらに2009年よりビル&メリンダ・ゲイツ財団が加わり、2019年より「ワクチンと予防接種のための世界同盟（GAVI）」が加わっています。GPEIの中で役割分担として、RIはポリオの認識向上、基金集め、政府への働きかけ担当、WHOはワクチン配布の戦略担当、UNICEFは予防接種担当、CDCは検査によるウイルスの種類と感染源の特定担当、ゲイツ財団は2013年よりロータリーの集めた基金の倍額をポリオ・プラスに寄付するなど財政的支援担当となりました。RI活動もGPEIを通して実施され目覚ましい効果を挙げてゆき

ます。1985年時点では125カ国で、推定35万件のポリオ患者がいました。これまでの35年間の活動により、およそ20億人近くの子供たちが経口ポリオ・ワクチンの投与を受け、小児麻痺から守られたと推定されます。具体的にWHOの宣言で見ると、1994年にアメリカ大陸からポリオ撲滅宣言され、2000年には西太平洋地域（オーストラリアから中国、日本も含む）で撲滅宣言、2002年にヨーロッパで撲滅宣言ができました。2006年時点でポリオの発症件数は、1985年に比し99%減少。ポリオ常在国の数は、アフガニスタン、インド、ナイジェリア、パキスタンの4カ国に絞られました。2014年インドを含む東南アジア地域にポリオ撲滅宣言。2020年にはナイジェリアを含むアフリカ地域に野生型ポリオ撲滅宣言がだされています。2022年現在残るはアフガニスタン、パキスタンの隣接する国境付近のみとなっています。2021-2022年にかけてGPEIの基金10.3億ドルは、パキスタンに31%、アフガニスタンに14%、アフリカに21%、ワクチン費用に24%とまん延国に集中して投資されています。具体的には、この年度この2カ国に年4回ワクチンを集中投与しています。その結果、「ロータリーの友」に毎月報告されている全世界の野生（自然）株ポリオウイルス症例は2019年176例、2020年140例、2021年6例、2022年半期で13例と著減していて、ワクチン集中投与の効果と考えられています。綿密なサーベイランス結果ですので、信頼できる数字です。出生率が高い中、接種率も高く保たねばならず、政

情不安やコロナ不安で保健活動が難しいなどの課題を乗り越えつつあるといえます。WHOの完全撲滅宣言はのびのびにはなってはいますが、着実にゴールに近づいているようです。2021年2580地区で行われた、「ポリオ根絶に関するワークショップ」でポリオ根絶コーディネーターの高柳育行氏の講演によると、RIがこれまで投資したポリオ・プラス基金の総額は23億ドルにのぼりますが、この51%はWHOの活動を介して、37%はUNICEFの活動を介して、11%がロータリー自身の役割を果たすため使用されているそうです。ポリオ撲滅には、年間約10億ドルの資金が継続的に必要と見込まれています。2020年のGPEIの基金収入、約10億ドルの内訳は、ゲイツ財団が3.7億ドル、米国政府が2.35億ドル、RIが1.5億ドル、英国0.9億ドル、ドイツ0.46億ドルと続きます。つまりRIの基金貢献率は全体の1/6位に当たります。また2020年度RIのポリオ・プラス基金1.5億ドルの使い道は、ワクチン確保39%、ワクチン投与19%、啓蒙活動24%、疫学・診療に14%となっています。いずれにしてもRIがポリオ撲滅に投資した基金はGPEIにより大規模に展開され、有効に使われていることが確認できました。

